

14 皮膚科研修プログラム

I 一般目標 (GIO)

皮膚科における診断と治療に必要な基本的知識、基本的技術を習得し、的確な診療記録を作成できる。
また、患者及び家族とのより良い信頼関係を確立し、医療スタッフとも協調して仕事ができる。

II 経験目標 (SBO s) (各項目の※は必修項目、)

A 経験すべき診察法・検査・手技

1. 基本的手技

基本的手技の適応を決定し、実施することができる。

- 1) 局所麻酔法を実施できる。※
- 2) 創部消毒とガーゼ交換を実施できる。※
- 3) 簡単な切開・排膿を実施できる。※
- 4) 皮膚縫合法を実施できる。※
- 5) 軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる。※

B 経験すべき症状・病態・疾患

1. 頻度の高い症状

- 1) 発疹 ※ R
- 2) 熱傷 ※

2. 経験が求められる疾患・病態

(A)疾患については入院患者を受け持ち、(B)疾患については、外来診療または受け持ち入院患者
(合併症含む)で自ら経験すること

- 1) 湿疹・皮膚炎群 (接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎) ※ (B)
- 2) 蕁麻疹 ※ (B)
- 3) 薬疹
- 4) 皮膚感染症 ※ (B)
- 5) 全身性エリテマトーデスとその合併症
- 6) アレルギー疾患 ※ (B)
- 7) 熱傷 ※ (B)
- 8) 老年症候群 (誤嚥、転倒、失禁、褥瘡) ※ (B)

III 方略 (LS)

1. 研修の場は皮膚科外来、病棟(5F、その他)である。
2. 研修指導は外来においては各曜日の担当医、病棟においては受け持ち患者の主治医である。
3. 研修医は副主治医として入院患者を受け持つ

A 外来における研修

- (1) 新患については予診を担当し皮診の観察記載を行う。
- (2) 外来担当医とともに外来検査および処置を自ら行う。

B 病棟における研修

- (1) 病棟廻診に同伴し SOAP 形式でカルテに記載する。
- (2) 主治医とともに患者の検査治療計画の立案を行う。
- (3) 手術患者については、ともに手術、術後のガーゼ交換、抜糸などの処置を行う。
- (4) 火曜日午後、褥瘡廻診に出席し指導を受ける。カンファランスして受け持ち患者のプレゼンテーションを行う。
- (5) 退院時には退院サマリーを作成する。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土 (第1のみ)
午前	外来研修	外来研修	外来研修	外来研修	外来研修	外来研修
午後	手術	褥瘡廻診	手術	爪外来	カンファランス	

指導体制

責任指導医・指導医：小林裕幸

上級医：森誉子、後藤克修

病棟師長：夏目和代

IV 評価 (EV)

1. 研修医評価票の各項目につき、指導医が評価を行う。
2. 経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態について病歴要約で履修状況を確認する。